

新入学児の交通安全

通学路を

実際に歩いてみよう

通学路を実際に歩いてみよう

新入学児をお持ちのお母さんは、学校の行き帰りが、とくに心配でしょう。お子さんを交通事故から守るために、次の点には特に気をつけましょう。

通学時間に合わせ、お母さんがお子さんといっしょに通学路を何回か歩いてみましょう。そのうえで、信号の見方や正しい横断の仕方などについて、具体的に教えるようにしましょう。また、同じ道でも、曜日や時

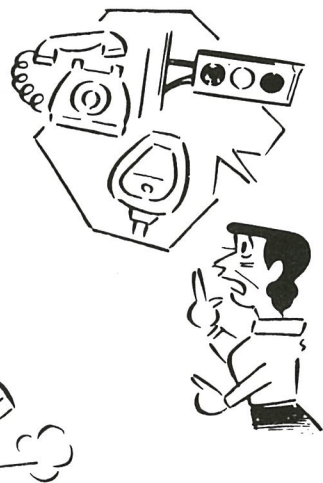
間によって車の量や人通りなど交通状況が変わることも、あわせて注意しましょう。

余裕をもって登校させよう

就寝前に翌日の持ち物を準備させ、当日忘れものなどないようにしましょう。また、時間的にも十分余裕をもって送り出すようにしたいものです。途中で忘れものに気がついてあわてて取りに戻ったり、遅刻しそうになって急いだりすることのないようにしましょう。

帰宅時間を約束させよう

学校が終わったら、寄り道をしなくて、まっすぐ帰宅させるようにし、帰宅時間を約束させ、しっかり守らせることも、交通事故を防止するうえで大切です。



歴史散歩 ⑧

まいわい



町史編さん委員会では、各地区に伝わる民俗行事を調査しています。が尾垂六区加瀬直治家に「まいわい」が保存されていることがわかりました。すそ模様は、

サンゴ、宝珠などの宝物で、上にはふじ棚模様、山二の船印です。

まいわいは「万祝」「間祝」「真祝」とも書きもともとは網元や船主が網子や縁者などを集めて祝宴を開いた大漁祝いのことですが、その時引き出物として配った祝い着を略して言うようになったものです。

いつ頃生れたものかはさだかではありませんが江戸時代の沿岸沖合漁業が盛んになった頃でないかと思われます。昔は麻が多く、しだいに浅黄

木綿が多くなり、まれに絹のものも見られます。

模様は型染で、図柄は鶴亀、高砂、恵比須、宝船、鯛、のしなどの縁起のよいものが描かれています。

これは着物の上に羽織るもので帯は締めず晴着として用いたものです。

町内でまいわいをお持ちの方がありましたら総務課企画係へお知らせください。

有線二〇二一〇三